

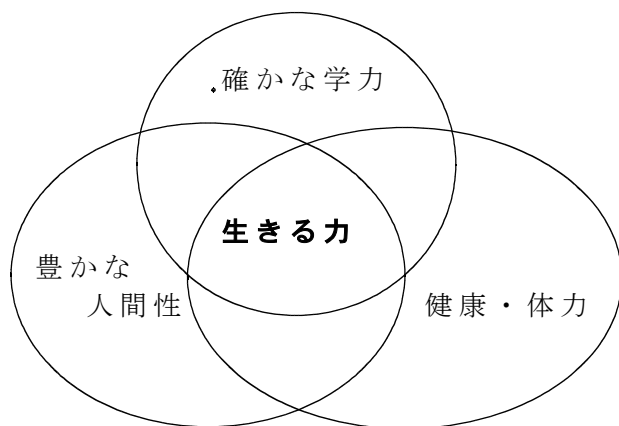
## 評価・評定について

### 1. 学力のとらえ方

以前の学力は、知識・理解や技能の習得の程度を主な学力にとらえ、そのためにペーパーテストを中心に他者との比較によって評価（相対評価）されました。

しかしこれからの社会は、国際化・情報化・科学技術の発展・環境問題等の様々な場面で大きく変化し、それに対応できる生徒の育成が求められています。よって、学習内容の知識・技能の習得だけでなく、その上に思考力・判断力・表現力や、現象を分析・統合し、課題を発見する力、学習する意欲態度等を学力にとらえる必要が出てきました。これを「確かな学力」と言います。「確かな学力」は、生徒に学校教育として身に付ける「生きる力」の知的側面です。

「生きる力」・・・これからの社会で、社会の一員として生活するために必要な力  
「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の三つを総合したもの



「確かな学力」とは・・・

知識や技能に加え、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

基礎・基本的な学力の上に

- |         |       |
|---------|-------|
| ◆知識・理解  | ◆思考力  |
| ◆判断力    | ◆表現力  |
| ◆問題発見能力 | ◆学ぶ意欲 |
| ◆課題発見能力 | ◆学び方  |

現在では、生徒の能力をさらに広くとらえ、他者との比較でなく各教科の目標に照らして評価するとともに、生徒一人一人のよい点や可能性も含め、総合的に評価する「絶対評価」になっています。

### 2. 評価・評定のつけ方

#### ① 観点別に評価する（観点別学習状況評価）

各教科（9教科）とも学習指導要領における指導内容に基づき、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点（国語科は5観点）に分け、次に学習の目標（ねらい）を定め、その学習状況の目標に対してどの程度達しているかを観点別に3段階（A・B・C）で評価します。

観点別学習状況評価	A：十分満足できると判断されるもの
	B：おおむね満足できると判断されるもの
	C：努力を要すると判断されるもの

\* 本校のカットポイントは、A-Bが80%、B-Cが50%です。

② 観点別学習状況評価から総合的に判断して評価を出す

各教科（9教科）とも、観点別学習状況評価（A・B・C）をもとに評価（5・4・3・2・1）を算出します。観点別学習状況評価から評価を算出するにあたっては、評価の到達基準など教科によって算出方法が異なっており、教科の特性を生かしたものとなっています。

評価について
5：十分満足できると判断されるもののうち、特に程度が高いもの
4：十分満足できると判断されるもの
3：おおむね満足できると判断されるもの
2：努力を要すると判断されるもの
1：一層努力を要すると判断されるもの

③ 観点別学習状況評価と評価には、相関関係があります。

例えば・

観点別学習状況評価「A A A A」	→ 評価は、4か5
「B B B B」	→ 評価は、3
「C C C C」	→ 評価は、1か2 となります。

「A A A A」で評価が「1」とか「2」とか「3」がつくことは、ありません。  
 「C C C C」で評価が「5」とか「4」とか「3」がつくことは、ありません。

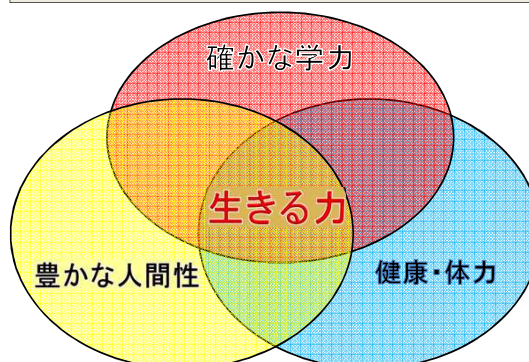
3. 各教科の観点（平成24年度 学習指導要領全面実施され一部新しくなりました）

	評価の観点		評価の観点
国語	国語への関心・意欲・態度	美術	美術への関心・意欲・態度
	話す・聞く能力		発想や構想の能力
	書く能力		創造的な技能
	読む能力		鑑賞の能力
社会	言語についての知識・理解・技能	保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度
	社会的事象への関心・意欲・態度		運動や健康・安全についての思考・判断
	社会的な思考・判断・表現		運動の技能
	資料活用 of 技能		運動や健康・安全についての知識・理解
数学	社会的な事象について知識・理解	技術家庭	生活や技術への関心・意欲・態度
	数学への関心・意欲・態度		生活を工夫し創造する能力
	数学的な見方や考え方		生活の技能
	数学的な技能		生活や技能についての知識・理解
理科	数量や図形などについての知識・理解	英語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度
	自然事象への関心・意欲・態度		外国語表現の能力
	科学的な思考・表現		外国語理解の能力
	観察・実験の技能		言語や文化についての知識・理解
音楽	自然事象についての知識・理解		
	音楽への関心・意欲・態度		
	音楽表現の創意工夫		
	表現表現の技能		
	鑑賞の能力		

# 評価・評定について

平成26年5月1日  
練馬区立関中学校

## 生徒に身に付けてほしい力「生きる力」



## 生きる力(智・徳・体のバランスのとれた力)

### 確かな学力

- 基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力
- 知識・理解、技能、思考力・判断力・表現力、問題発見能力・課題発見能力、学ぶ意欲、学び方

### 豊かな人間性

- 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心、感動する心、生命尊重、正義感、公正さ、責任感、社会貢献の精神など、人間としての要素・価値

### 健康・体力

- たくましく生きるための健康や体力

## 評価・評定を行う目的

- 生徒自身に自分の学習をふり返らせ、どの程度学力が身に付いたのかを確認させる。さらに、今後の学習への取り組みについて考えさせる。
- 卒業後の進路選択・決定に必要な調査書・内申書作成のための資料
- 教師が自らの指導に対して、どの程度生徒に学力を身に付けさせることができたかを確認し、今後の指導に役立てる。

## 評価・評定の流れ

学習指導要領に基づき「年間指導計画」の作成

教科ごとに何を教えるのか示されている。 教科ごとに、1年間の中でいつ教えるのか。

年間指導計画に基づき「指導と評価の計画」の作成

単元(題材)ごとの目標と内容と評価方法 観点別学習状況の評価規準

観点別学習状況評価をつけ、それを総括し評定をつける

観点別学習状況評価(A, B, C)をつける。 評定(5, 4, 3, 2, 1)をつける。

## 観点別学習状況評価の観点

- ◆ 関心・意欲・態度
- ◆ 思考・判断・表現
- ◆ 技能
- ◆ 知識・理解

◆ **関心・意欲・態度**

生徒が各教科の学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度が身に付けているか。

◆ **思考・判断・表現**

生徒が各教科の知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているか。

◆ **技能**

生徒が、各教科において習得すべき技能を身に付けているか。

◆ **知識・理解**

生徒が、各教科において習得すべき知識や概念等を理解しているか。

## 観点別学習状況評価の評価方法

## ペーパーテスト

- 小テスト、定期考査(中間考査・期末考査)等

## 観察による評価

- 学習活動(授業中)の様子の観察、ノート検査等

## 作品の評価

- 作品、作文、小論文、レポート等 \* 提出期限も大切

## 実技の評価

- 口頭発表、演奏、演技、操作、実技等

## 観点別学習状況評価

A

十分満足できると判断されるもの(80%以上)

B

おおむね満足できると判断されるもの(50%以上)

C

努力を要すると判断されるもの(50%未満)

## 観点別学習状況評価と評定との関係

観点別学習状況の評価	観点別評価の達成値	評定	評定の達成値
十分満足できる	A 80%以上	5	特により程度のもの 90%以上
		4	十分満足できる 80%以上～90%未満
おおむね満足できる	B 50%以上	3	おおむね満足できる 50%以上～80%未満
努力を要する	C 50%未満	2	努力を要する 20%以上～50%未満
		1	一層努力を要する 20%未満

-1-

## 観点別学習状況評価 → 評定

## AAAAならば

→ 評定は、4以上になる。  
(3, 2, 1にはならない)

## BBBBならば

→ 評定は、3になる。  
(5, 4, 2, 1にはならない)

## CCCCならば

→ 評定は、2以下になる。  
(5, 4, 3にはならない)

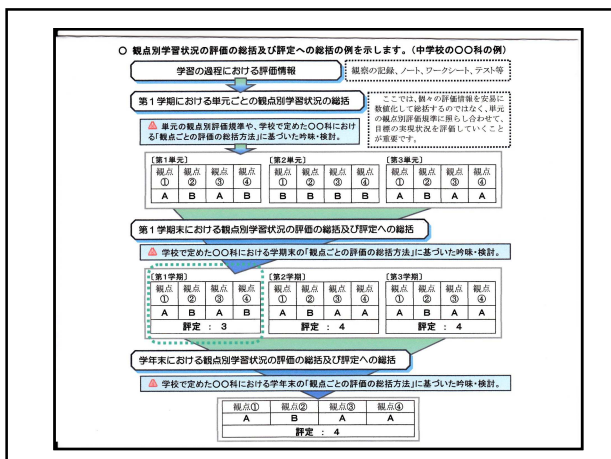
## AABBの評定は、いくつ？

- ◆ 関心・意欲・態度 → A (到達度95%)
- ◆ 思考・判断・表現 → A (到達度85%)
- ◆ 技能 → B (到達度70%)
- ◆ 知識・理解 → B (到達度75%)

□ 全体の到達度は・・・

$$(95+85+70+75)/4=81.25[\%]$$

よって 評定は、「4」となる。



### 評 定

5	十分満足できるもののうち、特に高い程度のもの
4	十分満足できる
3	おおむね満足できる
2	努力を要する
1	一層努力を要する

### 評価・評定について まとめ

- 「指導と評価の一体化」  
評価することだけが目的ではなく、次の指導に生かすための評価である。  
生徒にとっては、次の学習活動にいかす評価であることが大切。(成績相談日があります)
- 「目標に準拠した評価(いわゆる絶対評価)」  
以前行われていた、集団に準拠した評価(いわゆる相対評価)ではない。  
生徒個人の頑張りが評価される。他の生徒との比較ではない。

- 「観点別学習状況評価を総括したものが、評定である」  
観点別学習状況評価と評定とは、相関関係がある。AAAAは、4か5。BBBBは、3。CCCCは、1か2。
- 「個人内評価も大切にしています」  
日ごろの授業の中などで、生徒のよい点や可能性、進歩の状況等を評価し、励まし、努力を要する点を伝えたりする。

ご静聴ありがとうございました

# 終